

高住宮ノ谷遺跡

たかすみみやのたにいせき

& 高住牛輪谷遺跡

たかすみうしわだにいせき



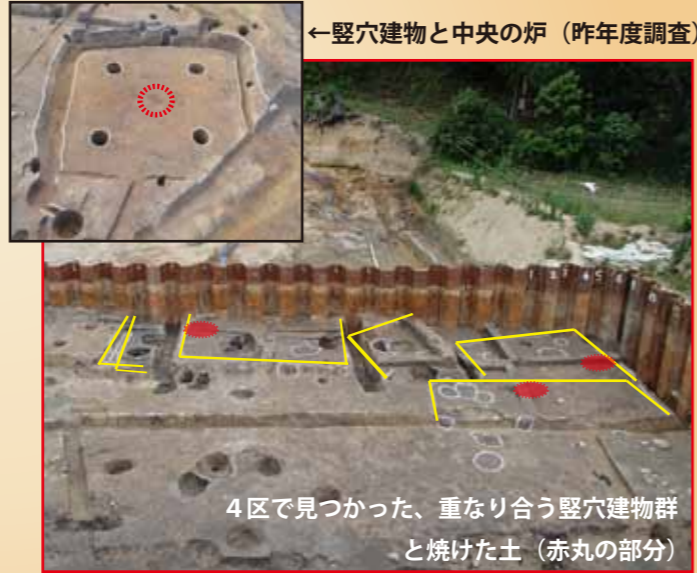
竪穴建物の原寸大パズル??

高住地区では、高住宮ノ谷遺跡の調査もいよいよ大詰めです。6月からは高住牛輪谷遺跡の調査も始まり、谷の東西が賑やかになってきました。

高住宮ノ谷遺跡4区では、丘陵の裾で竪穴建物が何重にも重なり合った状態で見つかりました。古墳時代後期から古代にかけてのものと推定しています。

注目されるのは、焼けた土が3カ所で見つかったことです。これらは建物内での火の使用を示す資料です。当時の鳥取県内では土製支脚や移動式竈を使用して屋外で煮炊きをしていたと一般的に考えられています。これらの火の痕跡が何によるものなのか、どの建物の輪郭とセットになるのかを解決するのはパズル並みの難しさです(^_^)

なお、昨年度調査した3区で見つけた2棟の竪穴建物では、中央に火を使った痕跡がありました(写真上)。



←竪穴建物と中央の炉(昨年度調査)

4区で見つかった、重なり合う竪穴建物群と焼けた土(赤丸の部分)

発掘通信

遺跡の周辺の田んぼは田植えが終わったばかりで、稲はまだ小さな苗ですが、秋には稲穂がたわわに実ることでしょう。調査も着々と進んでいます。今後開催予定の現地説明会では実った調査成果をお知らせしますので、楽しみに。

鳥取県教育文化財団 調査室

(公財) 鳥取県教育文化財団 調査室

〒680-1133 鳥取市源太 12 番地

TEL: 0857-51-7553 FAX: 0857-51-7550

メールアドレス: tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

HP: http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu_new.htm



鳥取西道路の遺跡を掘る!

第74号 2015年6月23日

鳥取西道路の調査では、これまでに松原田中遺跡や大桝遺跡などから弥生時代の農具である石包丁が出土しています。

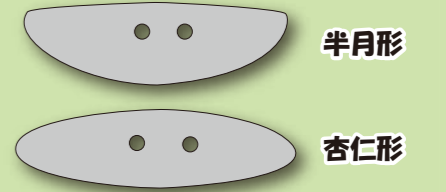
今回は、この石包丁についてご紹介します。



- ① 大桝遺跡 (鳥取市大桝地内)
- ② 高住牛輪谷遺跡 (鳥取市高住地内)
- ③ 高住宮ノ谷遺跡 (鳥取市高住地内)
- ④ 松原田中遺跡 (鳥取市松原地内)
- ⑤ 下坂本清合遺跡 (鳥取市気高町下坂本地内)

石包丁のおはなし

「石包丁」と聞くと、みなさんは魚や野菜などを切る「包丁」を連想されるかもしれませんが、石包丁は弥生時代に稲の収穫に使用した農具です。緑色片岩や安山岩等の硬い石を素材として扁平な半月形、杏仁形(あんずの種の形)などに成形し、中央付近に紐を通す穴を2つ開けています。そのほとんどが手の平からはみ出すくらいで、紐にかけた親指で、稲穂をはさんで押さえ、手首をひねってむしり取るように使いました(こうした収穫方法を「穂首刈り」といいます)。このころの稲は成長する速さにばらつきがあったので、実った穂から順に一本一本摘んでいたと考えられています。



半月形

杏仁形



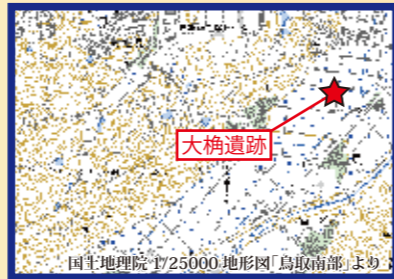
石包丁の持ち方



農具の機械化や稲の品種改良など技術革新が進んだ現代では、1アール当たりの収穫時間は約3時間だそうです。それに対し、弥生時代は稲穂を一本ずつ摘むので、大人数で作業しても相当な時間がかかることが想像できます。稲の収穫量や種類など様々な条件が違うので単純に比較はできませんが、手間のかかる大変な仕事だったことがよく分かりますね。

大楠遺跡

だいかくいせき



5区では、平安時代頃の流路を掘り下げる途中で、流路より新しい時代の土坑があることがわかりました。土坑の中の土を掘削すると、写真のような曲物が設置されていました。



土坑内から出土した曲物

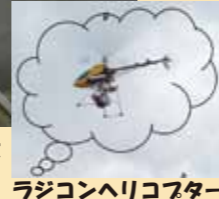
ここは、地下水を汲み上げるための井戸、または水を溜める場所であったと考えられます。

※曲物：薄く削った木材を円形に曲げて作った容器

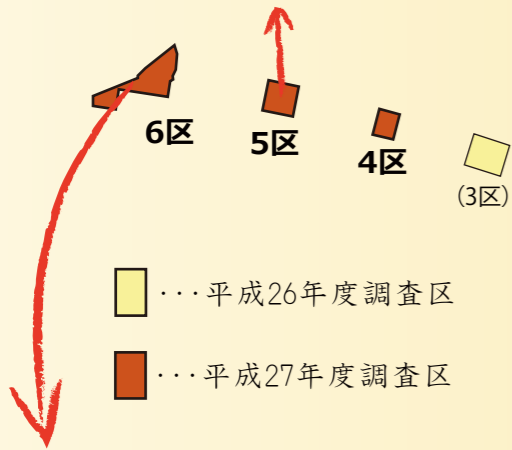
1-2・3・4区では、ラジコンヘリコプターをチャーター（！）して、空から写真撮影を行ないました。下の写真は、西から調査地と鳥取西ICを望んでいます。調査地内では、奈良から平安時代にかけての地面が顔をのぞかせています。建物や田んぼ、川の跡などが見つかっており、いまそれぞれの調査区で詳しく調査をすすめているところです（・ω・）b。



1-1区～1-4区までの全景（北西から）



ラジコンヘリコプター



6区では、2面目の調査で2棟の竪穴建物を検出しました。そのうち1棟は長方形で、長い辺が5.7mの大きな建物です。柱穴は、中心に2つありました。時期は古墳時代前期（約1,700年前）と考えられます。



竪穴建物と2つの柱穴

古代の掘立柱建物群の東側では、水路やあぜの跡などが姿をあらわしました。また、田んぼの耕作にはウシが使われたようで、ヒトやウシの足跡がたくさん見ついています。建物群の東側に田園が広がる風景が目に見えてきます（´▽`）。



左下がウシの足跡です

松原田中遺跡

まつばらたなかいせき

むかしの盾は色とどいどい！？



↑出土した盾をお掃除中…

松原田中遺跡では、今年度は3区と5区の2地区で調査を行っています。3区ではさっそく珍しいものが出土しました。

下層の土の堆積状況を観察するため、一部を深く掘り下げたところ、弥生時代終末期～古墳時代（約1,800～1,300年前）と考えられる川の砂の中から、赤色に塗られた板状の木製品が出土しました。

出土した状態が悪く、全体の形はわかりませんが、木が木目に沿って縦に割れないよう紐を通す穴が沢山あることから、盾と考えられます。



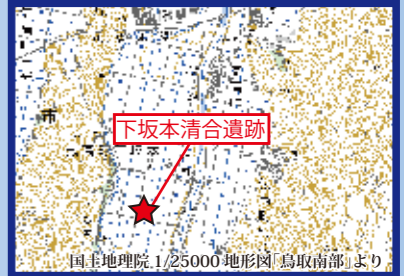
鳥取県では、青谷上寺地遺跡で盾の破片が40点以上出土しており、中には赤だけでなく黒や緑色に塗られたものもありました。当時の盾は攻撃から身を守るだけでなく、邪悪なものの侵入を防ぐためのマツリで使う道具でもあったようです。

この川は昨年度の調査でたくさんの木製品が出土した川の続きと考えられます。これからどんなものが出てくるのか、今後の調査が楽しみです（^^）/

下坂本清合遺跡

しもさかもとせいごういせき

水害を乗り越えて



調査区の東端部だけに厚く堆積している砂の層を掘り下げると、周りよりも地面が一段深くなりました。現れたのは江戸時代以前の田んぼの跡です（写真上）。おそらく、調査区の東側を流れる河内川が氾濫した時の砂が、低い位置にある田んぼを埋めてしまったのでしょう。

この田んぼの跡を上から見ると、弓なりに弧を描いているのがわかるでしょうか。これは、蛇行する川が形成した地形に沿って、田んぼが作られたためと考えられます。

砂の下からは木の根っこや建物の柱が出土しました（写真下）。おそらく上流から流れ着いたものでしょう。大きな石ころがぎっしりと堆積する箇所もあり、大変な水害だったことがうかがえます。

現在は河内川の土手の裾まで、平らに田んぼが広がっています。幾度となく繰り返された水害を乗り越えて、人々が水田を営み続けたことの証しです。



見つかった田んぼの跡



流れ着いた建物の柱